

# 厚生労働大臣が定める職場適応援助者養成研修のオンライン実施状況について

職場適応援助者養成研修については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮し、令和2年8月5日から一部科目のオンライン化を認めている。

- (1) 講義 オンラインでの実施可能（受講者の参加状況が確認でき、双方向性が確保できるツールを使用する等の条件あり）
- (2) 演習 対面実施が原則であるが、実施が難しい場合オンラインでの実施可能（演習内容及び実施方法について事前に厚生労働省の承認が必要）
- (3) 実習 対面実施のみ（規模縮小、日程の調整等に対応）

## オンラインでの実施状況

- ・ 実施機関数 5機関（7機関中）
- ・ 実施科目 講義及び演習：4機関  
講義のみ：1機関
- ・ オンライン科目を含む研修の受講者数  
R2：157名 R3：203名（予定）
- ・ 使用ツール Zoom

## 受講者の確認方法（複数回答）

※（ ）内は回答機関数

- ・ 出席確認  
点呼確認（4）、受講者カメラを常時オン（4）、その他（2）（クラウド型システムで確認、ギャラリービュー専用モニタで確認）
- ・ 習熟度チェック  
レポート作成（3）、テスト（1）、その他（1）（オンラインアンケート）
- ・ 質問受付  
チャット機能（4）、講義後に質疑時間を設定（2）、その他（1）（レポートに質問を書いてもらい、翌日以降に講師から回答）

## 実施機関からの意見

- オンライン化で注意した点
  - ・ Zoomの基本操作を研修前に理解できるよう、事前オリエンテーションや初心者セミナーを実施した。
  - ・ 研修の質の低下を防ぐため、演習内容をオンライン用に再作成した。
- オンライン化のメリット
  - ・ 主催者側の会場費や講師交通費負担、受講者側の移動費負担が軽減した。
  - ・ チャット、投票機能、ブレイクアウトルーム等を活用することで双方向の意見交換が行いやすい。
- オンライン化のデメリット
  - ・ 主催者及び受講者双方にオンラインスキルが求められ、受講者個々の環境・スキルによっては研修の質が担保できない。
  - ・ 受講者の研修に参加する姿勢（表情や態度）が把握しづらい。
  - ・ 受講者同士のつながりやコミュニケーションが制限される。演習などのグループワークに難しさを感じる。